

小戸小

五年

奥野

結翔

ぼくがくだん手洗いやトイレ、お風呂などで使った水は下水道に流れていって、下水の処理施設できれいにされて、川に戻されたり、公園のふん水や農業用水に再利用されることは四年生の社会で習いました。

下水処理施設では下水道管を通じて集められた汚水を十々二十時間かけてきれいにするそうです。そのようにしてきれいにされた水

を、一人あたり一日平均にして二リットルのペットボトルで百八本も使っています。二百六リットルで、お風呂一杯分くらいになります。そんなにも使っているのかと、びっくりします。

人間も含めて、動植物は水がないと生きていきません。なので水を大切に使うように生活しないといけないなと思いました。節水と上手な水の使い方を身近な人に聞いてみました。

お母さんに聞いてみたら、お風呂の残ったお湯は、洗たく機に入れて、洗たくに使ったリ、くつを洗うのに使ったり、ベランダのそりじに使ったりして、できるだけむだにしないうようにして、いると節水方法を教えてくれました。

ばあちゃんはお米のとぎ汁を庭の花や木にかけていたり、フライパンの汚れはきれいにふきとってから洗っていました。なぜそんなことをするのか聞いてみると、できるだけ汚

れた水を下水に流さないようにしていると教えてくれました。

汚れた水を流さないようにしているかは自分で調べてごらんと言われたのでインターネットで調べてみました。

するとフライパンの油汚れの油大さじ一杯分、塩川や海にいる魚が住めるくらいの水にうすめるためには、おふろの水三十はいい分も必要だということが分かりました。飲み残したみそ汁や、牛乳もそのまま流すときれいに

